

今号のトピックス

- ・国内事前確認
- ・APGNアジア大会
- ・日本ジオパーク全国大会
- ・レスボス研修
- ・防災シンポジウム
- ・ジオ検定3級
- ・ジオリア企画展
- ・イベントレポート
- ・ジオ学習
- ・etc.



伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK

世界審査に向け、国内事前確認が行われました

日本ジオパーク委員会(JGC)による伊豆半島ユネスコ世界ジオパークに対する世界審査の事前確認(以下、事前確認)が8月20日～23日の日程で行われました。2名の調査員は、ジオリアや16ヶ所のジオサイト、ビジターセンター等を視察しました。

今回の事前確認は、主に前回の世界審査で受けた5つの指摘事項への対応状況について検証が行われました。調査員からは来年の世界審査で確認される指摘事項に対応した改善点についての助言がありました。

現地を確認した調査員からはそれぞれ、「指摘事項への対応は概ね良好に進んでいるものが多い」、「把握している課題に対して継続的に改善できるよう活動を続けてほしい」とのコメントがありました。

ユネスコによる伊豆半島での世界審査は来年6～8月に行われる予定です。



国内事前確認の様子

APGNアジア大会に参加しました



GGN20周年記念事業も併催

世界ジオパークネットワークのアジア太平洋地域のジオパーク関係者が2年に一度、一堂に会する国際会議が、ベトナム社会主義共和国のカオパンで開催されました。今回、伊豆半島ジオパークからは、金刺ジオパーク推進部長が参加しました。

世界19か国から約800名が参加、それぞれの地域での活動事例や課題等を発表しあい、交流を深めました。会場内では日本ジオパークが連携した企画展「地球時間の旅」を紹介し注目を集めました。ベトナムの若者の日本への関心は高く、現地の運営ボランティアの方々や伊豆半島ジオパークが連携協定を結ぶインドネシア、チレトゥ・ユネスコ世界ジオパーク関係者とも交流を深めることができました。

第14回日本ジオパーク全国大会下北大大会（8/30～9/1）

青森県むつ市で開催された全国大会に事務局7名、ジオガイド5名で参加しました。辻・佐々木両研究員の口頭発表や次世代ジオガイドリーダー養成事業のポスター発表が行われ、また交流会やエキスカーションでは他のジオパーク関係者との交流や今後の連携事業等の協議を行いました。



世界ジオパークネットワーク集中研修 （ギリシャ・レスボス島）

ジオパークとは何か、何に気をつけて運営していけばいいのか、ユネスコの掲げる理念をどうプログラムに活かしていけばいいのか。どれをとってもなかなか難しい質問です。その答えも時間とともに変わり続けています。これらについて、世界認定や再認定を審査する世界ジオパークネットワークの幹部たちから直接学べる貴重な機会が、レスボス島の集中研修です。レスボス島は、ジオパークが産声をあげた世界4つの地域の一つで、世界ジオパークネットワークのゾーロス会長の故郷でもあるエーゲ海の島。世界中から集まったジオパーク関係者は、この島で講義だけでなく、サイトの管理や地元のコミュニティとの関係づくりについて見聞を広げ、ときにはワインを傾けながら夜更けまで幹部たちと語りあい、仲間意識を育んでいきます。

伊豆半島ジオパークでは、これからも定期的に職員がレスボスでの集中研修に参加し、世界の最新の動向に沿った運営を心がけるとともに、国外のジオパークとの絆を深めて参ります。



伊豆半島沖地震から50年 防災シンポジウムを開催



南伊豆町で尊い命が奪われた伊豆半島沖地震から50年、そして、今年元旦の朝、能登半島地震が発生しました。50年前の記憶や能登半島沖地震の課題を教訓とし、やがて来る地震への心構えと備えの意識を高めるために開催しました。静岡大学防災総合センターの小山真人客員教授、北村晃寿静岡大学防災総合センター長、同センター岩田孝仁特任教授がそれぞれ講演し、研究成果を紹介し、課題等を指摘しました。50年前、南伊豆で地震被災後の取材をした元静岡放送記者の川端信正さんや地元でジオガイドとして活動されている池野玉枝さんらからも様々な提案があり、平時の防災意識を高めることができました。

ジオ検定3級を実施

今年もジオ検定3級を受検いただきありがとうございました。今年を受検者は昨年比で114名増の697名（一部重複あり）、合格者は682名で内50点満点を取られた方が8名おりました。団体での受検はマックスバリュ函南店様、函南問宮店様、函南大土肥店様、富戸小学校様、函南東中学校様、他企業、ご家族での受検も多くみられました。来年1月に開催予定のジオ検定1.2級もぜひご参加ください。

ジオリア企画展

4月から9月に行ったジオリアでの企画展を紹介します。



児童生徒のジオ学習ポスター作品を展示

4月から7月にかけて、伊豆半島の中学校や特別支援学校の生徒が授業で学習した成果や、制作した作品の展示を行いました。4月25日から6月4日までは伊豆の国市立長岡中学校の3年生が伊豆地域の気象や防災についてまとめてポスターを展示しました。



6月6日から25日にかけては、静岡県立東部特別支援学校の生徒がキャンバスいっぱい描いたひまわりの絵を展示しました。6月27日から7月16日までは伊豆の国市立大仁中学校の1年生が総合学習で調べた西伊豆地域のジオサイトの成り立ちなどをポスターや紙芝居にまとめて展示しました。



三嶋大社秘蔵の古写真を展示

7月18日から9月24日までは、三嶋大社（三島市大宮町）で見つかったガラス乾板古写真を展示しました。三嶋大社では現在「令和の大修理」が行われており、その過程で発見されたガラス乾板写真のデジタル復元作業が進められています。写真には大正から昭和初期の三嶋大社周辺の様子が収められており、この頃に伊豆地域を襲った2つの大地震の被害を記録したものなど、地域の歴史資料としても貴重なものです。ジオリアでの展示では、2つの地震のメカニズムを解説するとともに、三島での被災状況や復旧過程を写真とともに紹介しました。



イベント報告

4月から9月に行ったイベントを紹介します。

静岡ガス連携イベント「ジオぱく」

今年度第一回の「ジオぱく」は6月9日に沼津市の平沢マリンセンターで行われました。海と食をテーマに行う今回は「養殖」の現場を見に行きました。

沼津市に面する内浦湾は養殖マアジの漁獲量が日本一、海に浮かぶ「いけす」まで船で向かい、参加者みんなで養殖されているマアジに餌をあげながら地元のダイバーや漁師の方のお話を伺いました。内浦湾が養殖に適した場所なのは、黒潮が魚にとって快適な温かい海水を運んでくれることや、湾の特徴である奥まった形が波や風をブロックして養殖いかだの固定を可能にしていることなどを学びました。その後は「いけす」で育てたマアジやサバの干物をバーベキューで美味しく頂きました。



今年度第二回目の「ジオぱく」は7月15日の海の日、静岡ガス株式会社本社のあるエネリアショールーム静岡で開催されました。

海と食をテーマに行う今回は前回の内浦湾のマアジの養殖「いけす」を見学した続きで、自分でマアジの干物を作る体験と、静岡市周辺の食材と伊豆半島の食材をコラボした料理づくりを行いました。前半の座学は前回に引き続き平沢マリンセンターの朝倉ジオガイド、美伊豆から佐々木研究員が担当、干物づくりも朝倉ジオガイドが指導、コラボ料理作りはエネリアショールームキッチンスタジオ担当フードコーディネーターの方々が行いました。座学に続きエプロンに着替えた参加者は朝倉さんの指導で、包丁の握り方、鰓や内臓の出し方、身を開くなど行い、その後塩漬け用の液を作り、15分ほど漬け込んでから干し網に入れ乾燥させました。その後は静岡県の食材で調理を行いみんなで食べました。

今年度もジオリアかき氷を販売しました

7月4日から9月30日にかけてジオリアにてかき氷の販売を行いました。好評いただいた昨年からの引き継ぎの販売となりましたが、今年は職員自家製の「深海ヤマモモ」味が登場しました。しっかりとした甘みとほのかな酸味がマッチしてとても美味しいかき氷となっていました。

来年度の販売は未定ですが、皆さまからのリクエストによっては来年はさらに味が増えるかもしれません。ご期待いただきお待ちしております！



ジオリアワークショップ①

5月5日（日・祝）ジオリアのテラスにて「海藻おしばづくりワークショップ」を開催。親子連れなど24名が参加しました。伊豆半島に生育する海藻や海の環境について理解を進めるためのワークショップをジオリアで開催しました。当日は講師として海藻おしば協会静岡支部の小張さんをお願いしました。ワークショップでは、海藻の四季の話、日本各地の海の中の様子の違い、私たちの食卓にのぼる海藻の種類の話から、地球温暖化と海水温の上昇、マイクロプラスチックの話まで、紙芝居や写真、動画を使って説明。

後半は、用意された9種類の海藻（名前入り）を、色や形を活かしながらはがき上に好きなように配置し、それぞれの個性が光る作品が出来上がりました。



ジオリアワークショップ②

7月20日（土）「鉢窪山宝探し」植物好きな大人が21名参加しました。

静岡大学理学部との共催で、鉢窪山の植物観察のワークショップを開催しました。静岡大学理学部の徳岡准教授と学生たちが開発した植物アプリを利用し、鉢窪山の植物をQRコードをスキャンしながら学ぶという内容でした。少人数のグループに分かれ、学生たちから植物の説明を受けながら和気あいあいと山頂を目指しました。猛暑でしたが鉢窪山の山道には風が通り、快適でした。



ジオリアワークショップ③

9月7日（土）「カメラと写真の仕組みを学ぶワークショップ」親子連れなど7名が参加しました。

ジオリアにて開催していた「三嶋大社秘蔵乾板写真展」に関連して、日本カメラ博物館から講師を招き、ワークショップを行いました。ワークショップでは、感光紙に直接物を置いて影絵のような写真を作る「フォトグラム」の技法を実践しました。光の透け具合を想定しながら、めいめいが実験的で持ち味のある作品を作り上げました。

また、100年ほど前の写真機を使って写真を撮り、現像するという試みも行われました。



ジオリアワークショップ④

10月12日（土）「植物さがしワークショップ 湯ヶ島ちっちゃな植物展」18名が参加しました。

今年度2度目となる静岡大学理学部との共催イベントとして、地域にどのような植物が生えているのかをじっくり観察し、植物図鑑の1ページに仕上げるといったワークショップを行いました。講師は7月同様、徳岡准教授と学生たちです。会場の湯ヶ島市民活動センターの周辺で植物を採取して、それぞれの視点で1ページに構成しました。作品はセンター3Fのあまじおに、3か月間のミニ展覧会として飾られました。展覧会は1月12日まで開催しています。



ジオカフェ

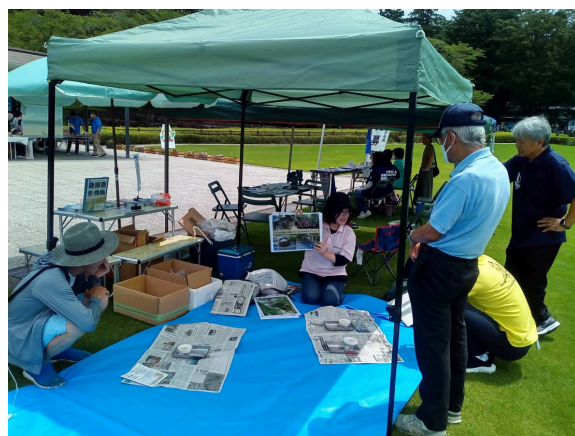
6月15日（土） ジョカフェ「ツナグ 陸-海 漁師の森づくり」 21名が参加しました。

2020年より伊豆急行線で運行しているジオトレインでは、伊豆半島各地でのSDGsの活動を紹介しています。このジオカフェは伊豆急行(株)の後援を得て伊豆高原駅で開催しました。南伊豆での漁師の森づくりの活動の話、陸と海をつなぐ生態系や地球温暖化の話題を中心に充実したトークとなりました。会場には伊豆半島の郷土料理として伝わる海産物を味見できるように用意しました。参加者からは、普段聞けない話が聞けた、知的好奇心が満足したなどの声をいただきました。



7月13日（土） 韮山反射炉の日に反射炉ガイダンスセンターにてブース出展

韮山反射炉が世界遺産に指定されたことを記念して毎年7月に行われているイベントに、今年も出展しました。今年はジオガイドさんたちが、伊豆半島の砂当てクイズや、柱状節理のでき方を片栗粉で体験できるコーナーを設けました。



2024年度第1回ビジターセンター情報交換会

5月29日（水）、修善寺にて、令和6年度第1回伊豆半島ジオパーク担当者会議 兼 ビジターセンター情報交換会を開催しました。

今年度新しく市町のジオパーク担当に就かれた方とビジターセンター管理者を対象に、ジオパークの現状や方針について再確認する場として毎年開催しています。当日はジオパーク概要説明やジオリアの案内を行うとともに、各地域の情報や取り組みの共有を行いました。新任者だけでなく、すでにジオパーク活動をされている参加者からも、こうした情報交換の機会は有意義だという感想が多く寄せられました。



ジオ学習及びESD活動推進拠点活動

4月から9月に行ったジオ学習及びESD活動推進拠点活動を紹介します。

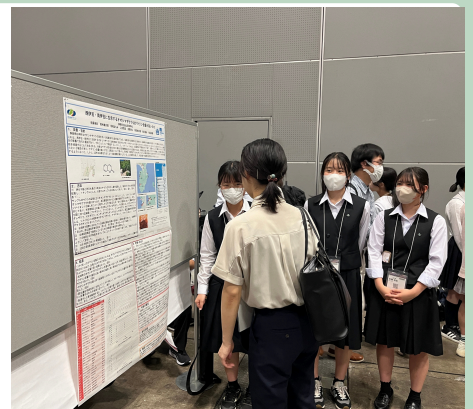
小中学校及び高校でのジオ学習

4月から9月にかけて、小学校5校、中学校7校、高校1校にて、理科や総合などそれぞれの教科・分野でジオ学習を行いました。ジオガイドとともに伊豆半島の成り立ちを実験によって学び、学んだことをフィールドワークで実際に見て知識を深めました。



JpGU 2024で高校生が発表

5月26日から31日にかけて幕張メッセ（千葉県千葉市美浜区）で行われた「日本地球惑星科学連合2024年大会（JpGU 2024）」の高校生ポスター発表のセッションで、静岡県立韮山高校の3年生が発表を行いました。「西伊豆・南伊豆に生息するオオシマザクラはクマリン含量が高いのか」というタイトルで、1年間かけて伊豆半島各地のオオシマザクラを調査・研究した結果を、大勢の研究者の前で発表しました。



ESD for 2030学び合いプロジェクトin山北高等学校

全国ESD拠点にて「気候変動教育」を全国統一のテーマとして行ってきた本プロジェクトですが、本年度は自立電源を実践する地域をモデルとし、気候変動、防災への具体的アクションを促進します。

今回は7月10日に神奈川県立山北高等学校にて身近にある小水力発電をテーマに行われました。

専門家からの講義やワークショップの中で実際にバッテリーを持つ体験をするなど、生徒は活発に授業に参加していました。



GGN20周年記念イベント

伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定されてはや6年、世界レベルのジオパークネットワーク（GGN）が誕生して20年になりました。生誕20周年を記念して、現在、世界各国のジオパークをあげてコンテストが行われています。コンテストの対象は各地のジオパークに住む人・来る人。フォトコンテスト、エピソードコンテスト、五感コンテストの3種類が開催されています。伊豆半島ジオパークのホームページから応募することができますよ。なんともいえない、西洋チックなデザインが目印です。応募期限は12月20日（金）で、日本語でご応募いただけます。たくさんのご応募お待ちしております♪



ESD書籍刊行

静岡新聞社から、一般社団法人美しい伊豆創造センター監修の書籍「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」が発売されました。

地質現象や岩石などを観察する場所というイメージが根強いジオパークですが、現在ではユネスコの下で持続可能な開発の実現に向けた総合的な地域づくりの取り組みに大きく姿を変えています。また、ジオパークが提供する学習プログラムも単に理科の授業を補助する野外体験に留まらず、地域の未来を担う人づくり、仕組みづくりに姿を変えています。

この本は、そのようなジオパークの新しい姿を体系的に伝える日本で初めての書籍となります。

来る12月には、全国のジオパーク関係者が伊豆半島に一同に会し、この書籍をテキストに新しいジオパーク像を学ぶ研修会の開催が決定しています。

書籍の定価は1,760円（税込み）、書店やジオリアでの販売の他、AMAZONでも購入できます。



伊豆の本物

伊豆半島で生産された農林水産物や工芸品を盛り上げるために、ジオパークでは「伊豆の本物」という事業を進めています。特産品を取り上げる企画では、伊豆半島の地質、気象、歴史、製法を切り口に、特産物のジオストーリーが制作されてきました。わさび、キンメダイ、潮かつおなど、8つのコンテンツをホームページの「楽しむ・学ぶ」で読むことができます。

今年度は美伊豆の観光・地域振興部と連携して、特産品のプロモーション活動を実施しました。ガラポンの景品として、わさびの消しゴムと伊豆半島との関係を解説したリーフレットを150セット配布。これからも、観光・地域振興部との相乗効果が高まるような活動を展開していきます。



発行元：（一社）美しい伊豆創造センター ジオパーク推進部
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内

☎ 0558-72-0250

✉ info@izugeopark.org

URL <https://izugeopark.org/>

伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内
開館時間/9:00～17:00（入館は閉館時間の30分前まで）

☎ 0558-72-0525

FAX 0558-72-1355

休館日/水曜日・年末年始（12/29～1/3）

（水曜が祝休日の場合は開館し、翌平日閉館）